

船底型構造を作り 岩層に底があることから これらの条件を具えたところには G層の存在があったものと考ええる。

これは 美濃高原のG層の分布するところと同じ地質構造をもっているところには かつてG層が 現在の火成岩または変成岩の原岩として存在していた という作業仮説から つまり岩質や組成物から 変身前の原岩を求めようとする オーズドックスの方法を通りこして(現在の段階では それができぬところから)現在の岩層の構造がG層のそれに 相似すれば 同じ原岩がかつてあったとする考えである。この考えでいくと すなわち 生駒山脈 六甲山脈にも かつてG層が存在したと いうことになる。しかしこの3ヶ処だけでは データが少なすぎて G層そのもの——日本中部にかつて存在したであろう海中の地背斜 の動向をつかむのが

困難である。

ここに前章“領家コンプレックス”にのべた 領家変成岩の配列から編成した背斜帯 向斜帯の分布を 参照して この章でつかんだ 構想を 合せて考えてみると 鈴鹿向斜帯は南下して 杖立の渦に出て その南で 近江・伊賀大断層またはその支断層で一旦切れる。これは 榛原の北に再び現われ 滝倉の渦に出て 北西に向い松尾山向斜に出て 生駒山の舟底構造につづく これから大阪平野へ没するまで 東西行し 大阪平野に没した構造は 六甲山脈の有馬 生瀬間に現われる。

これが中村の 近畿中部における地質構造線をふまえて骨格を作り 吉沢の領家コンプレックスでの褶曲で肉付をした。基盤構造の基本である。(付図参照)

(筆者は元所員 現大同ボーリングkk)

討 論 会

関東地方の地震活動に関連する地質学的・地形学的諸問題

日 時：6月21日(木)・22日(金) 10時～17時

場 所：地質調査所 溝の口4階会議室

問題提起または話題提供(仮題を含む)

1. 構造地質学的に見た関東地方の位置(山下 昇 信州大)
2. 日本列島の構造発達史における現在の構造運動の意味(藤田至則 東教大)
3. 関東地方の基盤構造(城戸秀夫 石油資源)
4. 関東地方の後期新生代構造発達史(三梨 昂 地調)
5. 第四紀地殻変動の性格(杉村新 東大)および南関東の地震性地殻変動(松田時彦ほか 震研)
6. 関東とその周辺海域の造構運動と地震活動に対する1つの説明(木村政昭 地調)
7. 火山配列から見た第四紀の応力場(中村一明 震研)
8. 南関東の構造発達過程と応力場の変遷(垣見俊弘ほか 地調)
9. 房総・三浦半島の断層解析結果とその地震学的意義(小玉喜三郎ほか 地調)
10. 関東地方の地形発達史と地殻変動(貝塚爽平 都立大)

11. 関東平野西部の地形区分と段丘面の変形(堀口万吉 埼玉大)
12. 東京湾とその周辺地域の地形発達史(菊地隆男 都立大)
13. 南関東に発達する横ずれ断層とその意義(金子史朗 立川高)
14. 関東地方の地震活動と最近の地殻変動との関係(鈴木尉元 地調)
15. 南関東の現在の地殻変動——展望と作業仮説——(笠原恵一 震研)
16. 関東地方の地震活動の特徴(津村建四朗 震研)
17. 南関東の広域歪分布(藤田尚美 国土地理院)
18. 関東地方における地震波速度変化の実験結果とその意義(長谷川功 地調 飯塚 進 東海大)
(他に数人の方のコメントをいただく予定)

総合討論

関東地方の地質学的・地形学的諸問題と地震予知に対する今後の課題

主 催 地 質 調 査 所 ・ 日本地質学会関東支部
「地殻活構造グループ」

連絡先

川崎市高津区久本135 地質調査所 地質部
垣見 俊弘 ☎(044)86—3171
一般の方の聴講を歓迎します。
(なお ポストプリントは単行本として刊行する予定)